

チャレンジ育英制度 論文奨励募集

チャレンジ育英制度論文奨励の応募を

2019年9月30日～10月4日で受け付けます。

今年度の論文テーマは、以下の6種類です。

- ①「シンギュラリティ：2045年頃私たちはどのように生きるのか」
- ②「オリンピック・パラリンピックにおけるおもてなしのあり方」
- ③「私たちは何のために生きるのか」
- ④「“黒っぼい入学式”について」
- ⑤文教大学内の課題とその解決方法
- ⑥外部でのコンテストで落選した論文を修正したもの

最優秀賞者には最高で **10万円** の育英金が支給されます。

夏休みに少し頑張ってみませんか？チャレンジ育英制度はその頑張りを応援します！

出願書類は**教育支援課**で配布しています。少しでも興味のある方は、教育支援課窓口へ！！

チャレンジ育英制度論文奨励

【給付金額】

最優秀賞：10万円（2件以内）

優秀賞：5万円（3件以内）

佳作：2万円（若干数）

努力賞：5千円以内（若干数）



2019年7月29日

文教大学チャレンジ育英制度選考委員会

チャレンジ育英制度「論文奨励」出題テーマ

①「シンギュラリティ： 2045年頃私たちはどのように生きるのか」

これまで人間にしかできないと思われていた仕事を人工知能がとって代わりつつあります。例えば、スーパーでの買い物を考えてみましょう。日本では、セルフレジのお店が増えつつあるのを皆さんもご存知でしょうが、アメリカでは、もう一歩先を進んでいます。Amazon Go の店舗ではレジ自体がありません。無数のカメラとセンサーを使って AI が商品を誰が買ったかをチェックしています。少し丁寧に話をすると、Amazon Go のお店に入り、通常の買い物のように、棚にある商品をつぎつぎと選択します。ただ、選択した商品をショッピングカートには入れません。そもそもショッピングカートはありません。商品を自分のバックに入れて、そのままお店を出れば買い物終了です。このように私たちの購買行動が、レジに並ぶというストレスから解放されつつあります。

しかし、物事には正の側面があれば負の側面もあります。野村総合研究所は、2015年に、「雇用の未来」の著者であるオクスフォード大学のオズボーン准教授らとの共同研究によって、10～20年後に約49%の職業が人工知能やロボット等に代替されるとの推計結果を公表しています。つまり、AIの自動化によって多くの雇用が危機にさらされることとなります。上記の例では、レジ打ちという仕事は徐々に消えてゆきます。人工知能の権威であるカーツワイル博士は、人工知能が発達して、人間の知性を超える点をシンギュラリティと言いました。これが2045年頃に起きるといわれています。そのころ、あなたは、どのように生きたらよいのでしょうか。そして、その時代に向けて、大学生のあなたは今どのような準備をしたらよいのでしょうか。

②「オリンピック・パラリンピックにおけるおもてなしのあり方」

来年、2020年はいよいよオリンピック・パラリンピック開催の年です。オリンピック招致の際、滝川クリステルさんのスピーチで、皆様を私どもでしかできないお迎え方として「おもてなし」というキーワードを取り上げました。この「おもてなし」に関しては、話題先行で、この言葉で意味する具体的なお迎え方法に関しては、あまり議論がなされてこなかった感があります。そこで皆さんには、この機会に私達がどのようなおもてなしをオリンピック・パラリンピックの参加者、観客に行うべきか考えてもらうきっかけの一つになればと考え、このテーマを設定しました。

③「私たちは何のために生きるのか」

最近の学生を観ていると、ただ惰性としてあるがままに生きているという気がします。せっかく大学に入ったのだから、社会に目を向けて生きていくことの証を養ってください。ただ生きるのではなく、生きることの目的を各自が自覚して生きることを考えて欲しいと思います。大学での学びも人生の道しるべとして、何かを感じ取って欲しいと思います。

自らが人としての在り方と大学での学ぶ目的を通して、自分を見つめ直し、何のために生きるのかを改めて自問して欲しいと思います。

④「黒っぼい入学式」について

大学の入学式で慣れないスーツに身を包む新入生の姿は端から見ても微笑ましく、付き添う保護者も嬉しそうです。ただ、昨今はこの大学でも、もし式に臨む新入生たちをドローンか何かで上から映したとすれば、全体にどんよりと黒っぼく見えることでしょう。別に赤や黄色や緑の服を着ていたからといって式場から放り出されるわけでもないのに、黒あるいは黒に近い色の無地のスーツを着ている学生がほとんどだからです。

ある研究者は、このような“黒っぼい入学式”の傾向は1990年代後半に始まったと分析しています。就職活動でいずれダークスーツが必要になることを見越してのことではないかということです。しかし、それまでの時代も就職活動は行われていたはずですし、実は入学式だけでなくいろいろな会社の入社式の写真を見比べてみても、以前は現在ほど“黒っぼい”似たような服ばかりではなかったことがわかります。

新聞報道によると、このような現状に疑問を感じて「就活も入学式も、減点されないように周りと同じ服を着るのではなく、加点を期待して自分らしさを出してほしい」という思いから、自ら服装を考えて選ぶことを新入生にわざわざ呼びかけ始めた大学もあるそうです。

皆さん自身はこのような“黒っぼい入学式”についてどう考えるでしょうか。このような傾向が広まったことの社会的・心理的な要因、今後どのような展開を見せると思うか、それはなぜか・・・などを含め、なるべく具体的に自分自身の考えを論じてみて下さい。

⑤文教大学内の課題とその解決方法

本学内で生じている課題や問題点についてと、その解決方法について論じてください。

(例) あだち校舎移転に関する提案 (湘南校舎/あだち校舎)

課外活動の活性化には何が必要か

学食やバス利用のマナー向上について

⑥外部でのコンテストで落選した論文を修正したもの

外部でのコンテストに応募したものの、落選してしまった論文を手直した上で提出してください。

※本学在学中に応募したものに限りません。

以 上